

1月放送総局長定例記者会見要旨

(1) 緊急事態宣言後の放送について (正籙放送総局長)

新型コロナウイルスの深刻な感染拡大が続き、緊急事態宣言が、今、11の都府県に出ている。まず、こうした中でのNHKの対応について申し上げる。

緊急事態宣言発出の局面では、ニュース枠を大幅に拡大してお伝えした。1都3県に緊急事態宣言が出された今月7日には、ニュース7を1時間に拡大し、宣言の対象地域が広がった13日には1時間42分に拡大した。番組では、8日夜の首都圏向けの「首都圏情報ネタドリ!」を27分から72分に拡大し、医療現場の現状や暮らしの注意点をお伝えした。地域に根ざした生活情報については、関東地方向けに、昼前や午後に放送枠を設け毎日放送しているほか、ラジオ第一でも、平日昼に特設枠でお伝えしている。さらに「NHKニュース・防災アプリ」や「NHK NEWS WEB」では、ニュースや関連情報に加え、感染状況などについての各自治体の長や医療関係者の記者会見を、随時リアルタイムで配信し、多くの方々にご覧頂いている。「NHK NEWS WEB」内の「新型コロナ特設サイト」では、先月の会見でお伝えしたように、NHKの取材に基づく感染者数などのデータを広く活用していただくため、ダウンロードできるようにしている。既に自治体や医療関係者など多くの方にご利用いただいているが、さまざまな観点のデータの掲載をさらに充実させていきたいと考えている。

「NHKスペシャル」は、今年度、先週末までに放送した70本のうち、新型コロナ関連の企画を28本放送した。「クローズアップ現代+」は、105本のうち70本放送している。今月16日の「NHKスペシャル」で、感染爆発による医療崩壊の危機を取り上げたが、今後も医療現場の現状や課題、ビッグデータの分析など、多角的にお伝えしていきたいと思っている。以上のような、ニュース、番組については、NHKプラスで、まとめて見逃し配信を行っている。

国際放送「NHKワールド JAPAN」では、18の言語で関連ニュースや情報を発信しているほか、SNSで感染予防の動画などを掲載している。海外の日本人に向けても、日本語ホームページを充実させ、情報発信を強化していく。

NHKでは、引き続き、正確な情報を迅速に届け、少しでも感染拡大の防止につながるよう全力を尽くしていく。

(2) 公共メディアキャンペーン「いま、学びを守ろう。」 (正籙放送総局長)

NHKが展開している公共メディアキャンペーン「いま、学びを守ろう。」についてご紹介する。家庭の環境や住んでいる地域などによって生じてしまう教育の格差。コロナ禍の今、親の収入が減ったり、オンライン学習の環境に違いがあったりと、こうした格差がより広がりつつあり、子どもたちの学びが大きな影響を受けている。各地で再び緊急事態宣言が出る中、今、学びを守るために何ができるのか、NHKでは、さまざまな番組、ホームページなどを通して子どもたちの声を伝え、ともに考えるキャンペーンを3月にかけて展開していく。柱となるのが、2月13日にEテレで放送を予定している特集番組「学びたいのに学べない」だ。キャンペーンのナビゲーターである柳楽優弥さんとともに、教育格差が顕在化している実態と課題を明らかにし、学びたいのに学べない子どもたちのためにできることを考える。このほか、レギュラー番組でも関連企画を多数放送する。「クローズアップ現代+」「おはよう日本」「逆転人生」では、家庭の事情を抱えた高校生たちの現状や学校の試みを紹介するほか、「所さん!大変ですよ」では、大学生に密着し、コロナ禍の学生の今を見つめる。また、参加型番組では、キャンペーンで伝えた情報を当事者たちがどう受け止めたのか、全国の大学生以下の子どもたちと語り合う。海外での対策や先進的な地域、学校の取り組みを見ながら、解決への道を探る。さらに、公式サイトでも、随時、子どもたちの声を募集し発信するほか、支援情報なども紹介していく。

(詳細は報道資料を参照)

(3) NHKスペシャル 東日本大震災から10年 (小池副総局長)

東日本大震災から10年の節目に、特別編成で8本放送する「NHKスペシャル」について。先月の会見でも簡単に触れたが、ラインナップが固まったので、より詳しくお伝えする。

まず3月6日は、「津波避難 何が生死を分けたのか」。東日本大震災では1万8千人を超える方が津波の犠牲になったが、これまで、逃げ遅れは個人の意識の問題として語られてきた。しかし、東北大学などが行った、津波から生き残った人たちへの聞き取り調査から、津波からどう逃げれば助かるのか、生死を分ける要素が新たにわかってきた。そのカギとなる行動の詳細をお伝えする。

翌日7日には、実話に基づくドラマ「星影のワルツ」を放送する。主演は遠藤憲一さん。震災から3日目、福島沖の海で、津波で流された自宅の屋根に乗って漂流しているところを、イージス艦に救助された男性を演じる。震災前の当たり前の日常が、どれほど貴重な時間だったか…。救助の際の実際の映像や震災直後のニュース映像を随所にはさみつつ、家族の絆と人間の底力を描く物語だ。

そして11日。この10年間、NHKが被災地100か所で記録し続けてきた映像でつくる「震災 映像記録 ～100か所の定点映像が映す“復興”～」をお伝えする。6000カットにも及ぶ、膨大な「定点映像」には、ハード面の再生のみならず、暮らしや生業を取り戻そうとする人々の復興に向けた動きが事細かに記録されていた。一方、映っていた人々を丹念に取材すると、思うように進まない復興の実情も見てきた。被災地の取材を続けてきた大越健介が、キャスターを務める。

このほかにも、震災で親を亡くした「震災遺児」たちが、それぞれの人生を歩もうとする姿を見つめる番組や、原発事故がもたらしたものの、廃炉に向けたこの10年の軌跡を取り上げた番組などを放送する。

(詳細は報道資料を参照)

(4) 国際放送 アニメ「舞妓さんちのまかないさん」 (小池副総局長)

続いては、NHKの国際放送「NHKワールドJAPAN」で2月から放送するアニメ『舞妓さんちのまかないさん』について。このアニメは、舞妓さんに憧れ、青森から京都にやってきた、2人の少女が主人公。日本が誇るアニメ、さらに伝統文化や食文化を世界に発信していく。国内向けには、今年の秋に、Eテレでの放送を予定している。

(詳細は報道資料を参照)

(5) BS1 奇跡のレッスン「将棋編 森内俊之」 (若泉副総局長)

私からは、まず、BS1の番組を紹介する。さまざまな分野で活躍する“最強コーチ”が、子どもたちに1週間の特別レッスンを行う「奇跡のレッスン」。今回の放送では、藤井聡太二冠の登場で若い世代にも注目されている「将棋」を取り上げる。“最強コーチ”は、永世名人の森内俊之さん。レッスンを受けるのは、横浜市の公立中学校の将棋部。経験の浅い部員も多く、決して強いとは言えない。さらに、コロナ禍で大会は次々と中止となり、卒業を控えた3年生は落ち込んでいた。そこに、森内さんが「失敗」や「負け」から学ぶことの大切さを伝える。最終日は、格上の中学校との練習会。果たして部員たちは、どんな対局を見せるのか。放送は2月15日月曜日、午後6時から。

(詳細は報道資料を参照)

(6) BSP 驚き！ニッポンの底力「鉄道王国物語5」 (若泉副総局長)

続いて、BSプレミアムの番組をご紹介します。世界に誇る日本の技術力を取り上げる「驚き！ニッポンの底力」。その鉄道シリーズ第5弾を放送する。新幹線試験車両「ALFA-X」の開発秘話や、SL復元作業に挑戦する技術者の姿など、鉄道ファンでなくても見逃せないエピソードが満載だ。

このほか、2月20日放送「渋沢栄一 in パリ万博」、2月27日放送「ありがとう裕さん さらば石原軍団」もおすすめしたい。

(詳細は報道資料を参照)